

[第1回 これだけは知っておこう 留学／フィールドワークのリスクマネジメント]

## 留学先における性暴力・性搾取の根絶に向けて

# Aiming to Eliminate Sexual Exploitation against Students Studying Abroad

SAYNO!  
SAYNO!

### キーワード

海外留学 性暴力 性搾取

### Keywords

Study abroad; Sexual violence; Sexual exploitation

*Quadrante*, No.24 (2022), pp.103–106.

### 目次

1. 私の体験
2. SAYNO! の活動

2021年10月20日に東京外国語大学で実施されました「これだけは知っておこう留学／フィールドワークのリスクマネジメント——だいたいにしてほしいカラダとココロ・被害者にも加害者にもならないために——」で登壇させていただきました SAYNO! (セイノー) と申します。

SAYNO! は留学時における性暴力・性被害の根絶を目指し「トビタテ! 留学 JAPAN」奨学生約10名により2020年春に設立された団体です。実際に留学先で被害に遭った私たちが知っておきたかったことをこれから留学に行く学生に伝えることで全ての学生が思う存分留学を全うできる社会を目指しています。私自身も2019年夏から専攻語を習得するためにヨーロッパのある国に留学し、性被害に遭った一人です。被害や SAYNO! の活動については家族に話しておらず、そのために匿名で活動しております。本稿ではまず私自身の被害経験につ

いてお話し、その後日本人からの被害を中心に SAYNO! の活動内容を紹介いたします。

### 1. 私の体験

のちに私の加害者となった日本人男性 A さんと知り合ったのは、現地の日本センターでした。3年前から駐在している A さんはお子さん二人を日本語補修校に連れてきて、お子さんたちの授業終了を待っているところでした。私は日本語の本を借りられると伺い、初めて日本センターに来たところで、そこで A さんに声をかけられました。それまで日本人の知り合いが現地に一人もいなかった私は、気にかけてくれたのがとても嬉しかったのを覚えています。いずれ大好きなその国で働きたいと考えていた私は、現地での仕事内容、どんな生活をしているのかなどのお話を聞かせてもらいました。現地の日本人コミュニティのことや、どこのカフェが日本人の舌に合うかなど、留学生生活をより楽しくするための情報もたくさん教えてもらいました。治安が悪化した際には、大使館よりも早く情報を共有してくださりました。



しばらくして、「そろそろ日本食が恋しくない？  
うちなら日本の番組が見られるよ!」と誘われる  
ようになりました。家に行くことには抵抗があ  
り、「レストランで食べませんか?」と提案して  
いたのですが、それでも誘われ続けたので、「お  
世話になっているのにあんまり断るのも失礼か  
な、一度行けばもうAさんも納得するだろう」と  
考え相手の家に行ってしまったのが間違いでし  
た。

「やめてください」と泣く私の声は全くAさん  
に響いていないようでした。信頼していたAさ  
んが全く私の話を聞いてくれず、「大丈夫、大  
丈夫」とまるで私が間違っているかのように続  
けることにとっても混乱しました。今いるのはマ  
ンションの上の方で、家から外へ出る道は覚え  
ていない、もしかしたら追いつかれてしまうか  
もしれない、外国で夜に乱れた服で外には出ら  
れない、荷物をどうしよう、と逃げることは考え  
られませんでした。とにかく相手を逆なでしな  
いように、なるべく平和にことを終わらせる方法  
だけを考えていました。

被害直後は、なぜかあれは大したことではな  
かったのだと思い込んでいました。しばらくし  
て、ある日本人女性から話の流れで「Aさん  
には気を付けた方がいいよ」と言われ、初めてこ  
との重大さに気づきました。その女性も、Aさ  
んから被害に遭いかけたと言っていました。彼  
女に全てを話し、これは人に相談すべき事態な  
んだと初めて自覚しました。そこから心がおか  
しくなっていたのをよく覚えています。突然  
涙があふれだし止められなくなる、大好きだ  
った学校に通えなくなる、ホストファミリーの作  
ってくれた食事がのどを通らなくなるなど、人  
に迷惑をかけている自分がすごく嫌になりました。

一方、なんとか心が楽になればと、現地の日  
本大使館の職員や他の駐在員に相談したりも  
しました。そのほとんどが男性で、また小さな

日本人コミュニティではすぐに噂が回ってしま  
うと聞いていたので、相談するのはとても勇気  
がいました。皆さんその場では話を聞いてく  
れましたが、そのあとだんだんと距離を置かれ  
ました。「なんで家に行ったの?」「本当に同意  
がなかったの?」と何度も聞かれることも精神  
的負担になっていき、相談はしなくなりました。  
日本のカウンセラーに相談しようともしましたが、  
「オフィスに来てください」と言われるのが  
大半で、のちに加害者の企業から紹介されたカ  
ウンセラーはオンラインで受け付けてくれまし  
たが、1時間約5,000円で21歳の私には気軽  
には相談できませんでした。

一方、身体の方でも問題を抱えていました。  
妊娠と性病の不安を抱えつつ、医療レベルが低  
く、日本語でもよくわからない妊娠や性病につ  
いて現地で検査する勇気もありませんでした。  
妊娠に関しては、生理が来るのを待つというこ  
とになってしまいました。最終的には相談して  
いた日本人女性の方が一緒に来てくださり現地  
で性病の検査はできましたが、検査に踏み切れ  
たのは事件から2か月後でした。

また法律で訴えようにも、現地では大使館内  
で起きたことしか日本の法律で裁けないと聞  
き、精神的にも身体的にも疲弊しきっていた私  
はすぐに諦めてしまいました。親身になってく  
ださった日本人女性のサポートのもと、法テラ  
スというシステムを使い、弁護士に何度か電話  
やメールで相談させてもらいながら慰謝料を請  
求することができました。Aさんは弁護士を雇っ  
ているため、相手の会社の顧問弁護士やAさ  
んの弁護士と話し、交渉する日々が続きました。  
金銭的に弁護士を自分では雇えない私は、直  
接相手の弁護士と電話で話すしかなかったの  
です。一刻もはやく全て忘れて、留学生活に集  
中したい中、あくまでAさんとその会社を守る  
のが目的である弁護士たちとやり取りするとは  
とてもつらかったです。

しばらくして、同じく留学を経験した友人たちから、似たような被害を受けたという声をちらほら聞くようになりました。そこでだんだんと立場の弱い日本人留学生が、駐在員から被害に遭うという事例は世界各国で起きているのではないかと思うようになりました。そんな中、全く同じ問題意識を持っていたメンバーが声をあげ、現在の SAYNO! の仲間が集まりました。第1回「留学でのセクハラに関するアンケート」をオープンした日のことは今でもはっきり覚えています。たった1日で200件以上の回答、詳細に記載された悲惨な被害の数々に、私のうっすらと感じていた問題意識が、はっきりと大きな問題だ、これはなんとかしないと、これからこの構造的な問題で被害に遭う学生が出続ける、という強い危機感に変わりました。

## 2. SAYNO! の活動

SAYNO! が2020年5月から7月に実施したアンケートでは516件中、216件で性被害が報告されています。うち157件が被害当事者、59件が性暴力を見聞きしたと回答しています。また被害に遭った場所については、ヨーロッパ、北米、アジア、中東、オセアニア、南米、アフリカ、いずれの大陸に偏ることなく被害が起きています。特に欧州・中南米・アフリカは留学者数に比べて被害が多く報告されました。「トビタテ!留学 JAPAN」の報告によると、中南米・アフリカに留学した学生は他の地域と比べ非常に少ないと考えられます。にもかかわらず、私たちのアンケートではアフリカで13件、中南米で5件の被害が報告されました。また、欧州では84件の被害が報告されています<sup>1</sup>。

被害者の男女比は外国人からの被害、日本人からの被害を問わず被害者の外見的性別が女性の場合が約9割、男性の場合が約1割と

なっています。加害者の属性としては、日本人からの被害の場合、半数以上が駐在員となっており、加害者が外国人の場合、半数以上が所属不明となっています。被害当時、「逃げ場がないと感じたか」という質問には72.8%が「逃げ場がないと感じた」と回答し、「被害当時周りに頼れる人がいたか」という問いには58%が「いなかった」と回答しています。アンケートの詳細は SAYNO! のホームページからご覧いただけます<sup>2</sup>。

SAYNO! はアンケートの実施、また被害者へのヒアリングにより留学先における性暴力は構造的な問題の中で起きていると考えています。海外だからこそ「日本人」という背景が距離を縮める根拠となることが多く、現地の情報が少なく、語学力にも自信のない学生が、現地のことをよく知っている社会人から被害に遭うという事例が多く報告されています。

アンケートの結果や、万が一被害に遭ってしまった場合どうしたら良いのかといったことは「留学生のための性暴力対策マニュアル」にまとめました。SAYNO! のホームページからダウンロードできます。A4表裏1枚ですので、他の留学書類と一緒にファイルに挟んで留学先に持っていき、万が一のときに取り出したいです。

被害に遭わないために学生たちがココロとカラダを守る知識を身に付けるというのは本質的な解決方法ではありません。SAYNO! は加害者を生まない社会の構築に向けても活動しています。2021年3月22日の参議院文教科科学委員会では留学生が現地の日本人から性暴力を受ける事案が相次いでいることが取り上げられ、萩生田光一文科相(当時)から「邦人からの性被害が非常に多いと聞いて、大変ショックを受けた。きちんと精査したい。」というコメ

<sup>1</sup> 『トビタテ!留学 JAPAN』 (<https://tobitate.mext.go.jp/about/case/>)

<sup>2</sup> 『SAYNO!』 (<https://sayno-ryugaku.com/voices/>)

## 留学先における性暴力・性搾取の根絶に向けて

ントをいただきました。しかし、SAYNO!のメンバーはほとんどが学生であり、「加害者を生まない社会の構築」においては非力だと感じています。活動をしていく中で、ある商社に勤める方から「日本ではコンプライアンスが厳しくなりつつあるので、そこに適応できない人を海外駐在にさせている」という話を聞いたことがあります。どこまで真実なのかはわかりませんが、本来ならば加害者が生まれないようなシステムを構築していくことが海外に駐在員を送り出す企業には求められると思います。

最後にお伝えしたいのは、留学は素晴らしい経験となるということです。私は予想外の経験をする事となりましたが、それでも留学に行っただけ良かったと思っています。それはSAYNO!の多くのメンバーも同じ意見です。私たちのアン

ケートでは回答者の大半が留学前にセクハラに関するガイダンスを受けたことが「ない」と答えています。留学前に自分や大切な人を守るための知識を身に付けることは重要です。しかし、その後は思う存分留学を全うしていただけたらと思います。

### 【参考】

朝日新聞（2020）「留学先での性暴力、被害者ら実態調査 不安で頼ったら…」

〈<https://digital.asahi.com/articles/ASN874WKNN84UTIL00K.html>〉

教育新聞（2021）「『トビタテ!留学』で性被害報告 文科省が実態調査へ」

〈[https://www.kyobun.co.jp/news/20210322\\_04/](https://www.kyobun.co.jp/news/20210322_04/)〉

NHK クローズアップ現代 “性暴力” を考える（2021）「日本人留学生 駐在員から性暴力 被害者は他にも…」

〈<https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0026/topic028.html>〉

トビタテ!留学 JAPAN

〈<https://tobitate.mext.go.jp/about/case/>〉